



新潟日報

# 挑め、上越。



## Joetsu Challenger's INTERVIEW

上越チャレンジャーズインタビュー

#008

柿崎の未来を、農業で支える。

柿崎を食べる会 会長

ながい 長井 慎也 (40)

柿崎の専業農家の人たちがつく「柿崎を食べる会」では、効率化と機械化を進める最先端の農業の傍ら、棚田の米づくりや横山人参の復活など手間のかかる真逆の作業をみながら行っている。棚田を守ることは、上越の自然を守ることにつながる。やり続けなければ意味がないと継続の重みを感じながらも、長井さんは気負わず、あくまで自然体で農業と向き合っている。

こともありますが、自由に時間を使えるようになりました。冬は、除雪の仕事もしていますが、いろいろな時間の使い方ができる農家は気に入っています。田植えの景色は最高です。収穫の時期には心が躍りますね。

そう言えは父とは仕事の面でも言い合いをしたことがないですね。度々自分から、あーしたい、うーしたいと言ったことがないです。父を尊敬しているのかな笑。私は疲れたら休みたいくらいですが、父が休んでいる姿を見たことがない。父は休みの日にすることがなくて困るくらい田んぼの働きの重みを感じて思っているのかもしれません。米づくりが大好きではないかな、そうですね。

私は時間があれば、どこかに行きたいと思うけれど、父は休みでも田んぼを見てまわっています。私は、まだそこまでいってない笑。でも、いずれはそうになりたいですね。

今から10年前に「柿崎を食べる会」に入りました。前会長の岸田さんが若手の5人に声をかけてくれたのがきっかけです。会は2002年に、元町長の榎井さんと岸田さんと中村さんの3人で立ち上げました。現在、地元農家8人のメンバーで、それぞれが米などの農産物をつくり、自分たちで発信もする次世代型農業を目指しています。柿崎と農業を愛する点で結束が強く、一緒に活動しているのが楽しいです。

具体的な活動としては、中山間地の農地の事務や、山間部の棚田での米づくりなどを行っています。山間の棚田は、生産者が高齢化して辞める人が多くなり山が荒れていくのを何とかしたいと思い始めました。柿崎には名水百選の大出口泉水があります。

山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

# 大好きな米づくりから、柿崎にひとつつまづ、元気な

置して水を引いたりしています。草を刈る面積も広いので、傾斜地で機械を使うのが危険も伴います。棚田の米づくりを経験したら、それまで大変だと思っていた平場の米づくりが楽だと思えました。

会で行っている棚田では、それぞれの仕事の合間に、全員で田植えをしています。山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

人々でやっている自由もなくなってしまふと思います。小さいころに「農業をしたい」と言っていた息子も中学生になりました。私は父から継ぎなさいと言われなかったため、私も息子に「継いでくれ」と言うつもりはありません。継いでくれたら良いなあとは思っています。ここ数年、一番心配なのは異常気象でね笑。

これからの農業を考えると、担い手が高齢化して、辞めていく人が増えるので、面積を増やそう

いる人や、酒づくりに行く人もいて、みんな結構忙しくて。会のみならず、それまで大変だと思っていた平場の米づくりが楽だと思えました。

会で行っている棚田では、それぞれの仕事の合間に、全員で田植えをしています。山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

「柿崎を食べる会」は、山が荒れるとその名水が平場の田んぼに下りてなくなります。全部は無理ですけど、できる範囲だけでも米づくりを続けて、山の棚田を守っていければと思っています。そのおかげもあり、0.7ヘクタールから始めた棚田が、いまでは1.6ヘクタールに広がりました。ちなみに、私たちが通っている東横山の集落は7世帯で、高齢の方が多のですが、中には80代で現役の方もいらっしゃいます。すごいなあと感じますし、その姿勢を見習いたいです。

4人家族で柿崎の黒岩地区に移住しました。彼は農業に対する思い入れが強くヤギや羊を飼っている。柿崎の強みかもしれない。

柿崎は、海があり、山があり、自然が豊かです。それだけで満足なです。山間の棚田の水を見に行くと、その後の、ふらっと海に行くと、驚いたことだと思えます。日本三大薬師に数えられる霊峰「米山」があり、伝統行事の「お引き上げ」もあります。上越の人気武将、上杉謙信の家臣の猛将と言われる、柿崎景家ゆかりの地でもあるけれど、自分たちからアピールしないから、おとなしい印象になってしまうのかな。

最近、私たちはインシの害に苦しめられています。逆手に、インシの肉をジビエ料理として楽しんでいます。柿崎を食べる会では、特別大きなことはできませんが、農業を通じて地域内外の人と交流を深め、柿崎の農産物を喜んでいただける形で提供しています。柿崎を元気にしていきたいです。昨年の柿崎を食べる会主催の田植え体験は例年になく盛況でした。私が中学生のころから、柿崎では東京農工大学の生徒を研修生として受け入れているのですが、その時のOBが東京から来てくれました。いい景色の中でお昼ご飯を食べ、みなさんと一緒に、私も、自分たちのつくったものをおいしく食べていただき、とてもうれしかったです。新しいことをするのも良いですが、現状を維持すること、山を守ることも含めて、まずは続けていくことが大切だと思います。柿崎は、海があり、山があり、自然が豊かです。それだけで満足なです。山間の棚田の水を見に行くと、その後の、ふらっと海に行くと、驚いたことだと思えます。日本三大薬師に数えられる霊峰「米山」があり、伝統行事の「お引き上げ」もあります。上越の人気武将、上杉謙信の家臣の猛将と言われる、柿崎景家ゆかりの地でもあるけれど、自分たちからアピールしないから、おとなしい印象になってしまうのかな。

彼が発案で、地元の商工会青年部と一緒に柿崎地域の「フォトコンテスト」を開催しました。また、地域おこし協力隊の選考に漏れたにもかかわらず、柿崎を食べる会」のメンバーの家に研修

生として残り、柿崎に住んでいる人もいます。先日、東京と京都から、柿崎に協力隊の話を聞きに来た方、うち1人の方は上越の街に移住が決まりました。そのほかにも、新潟市在住にも関わらず柿崎を気に入って、地元の酒蔵で「M」というお酒をつくっている方もいます。その方に頼まれて、柿崎を食べる会」では棚田で

特注の酒米をつくっています。地域の魅力を私たち以上に感じていて、応援して下さる方がいるのは、柿崎の強みかもしれません。

柿崎は、海があり、山があり、自然が豊かです。それだけで満足なです。山間の棚田の水を見に行くと、その後の、ふらっと海に行くと、驚いたことだと思えます。日本三大薬師に数えられる霊峰「米山」があり、伝統行事の「お引き上げ」もあります。上越の人気武将、上杉謙信の家臣の猛将と言われる、柿崎景家ゆかりの地でもあるけれど、自分たちからアピールしないから、おとなしい印象になってしまうのかな。

最近、私たちはインシの害に苦しめられています。逆手に、インシの肉をジビエ料理として楽しんでいます。柿崎を食べる会では、特別大きなことはできませんが、農業を通じて地域内外の人と交流を深め、柿崎の農産物を喜んでいただける形で提供しています。柿崎を元気にしていきたいです。昨年の柿崎を食べる会主催の田植え体験は例年になく盛況でした。私が中学生のころから、柿崎では東京農工大学の生徒を研修生として受け入れているのですが、その時のOBが東京から来てくれました。いい景色の中でお昼ご飯を食べ、みなさんと一緒に、私も、自分たちのつくったものをおいしく食べていただき、とてもうれしかったです。新しいことをするのも良いですが、現状を維持すること、山を守ることも含めて、まずは続けていくことが大切だと思います。柿崎は、海があり、山があり、自然が豊かです。それだけで満足なです。山間の棚田の水を見に行くと、その後の、ふらっと海に行くと、驚いたことだと思えます。日本三大薬師に数えられる霊峰「米山」があり、伝統行事の「お引き上げ」もあります。上越の人気武将、上杉謙信の家臣の猛将と言われる、柿崎景家ゆかりの地でもあるけれど、自分たちからアピールしないから、おとなしい印象になってしまうのかな。

彼が発案で、地元の商工会青年部と一緒に柿崎地域の「フォトコンテスト」を開催しました。また、地域おこし協力隊の選考に漏れたにもかかわらず、柿崎を食べる会」のメンバーの家に研修

生として残り、柿崎に住んでいる人もいます。先日、東京と京都から、柿崎に協力隊の話を聞きに来た方、うち1人の方は上越の街に移住が決まりました。そのほかにも、新潟市在住にも関わらず柿崎を気に入って、地元の酒蔵で「M」というお酒をつくっている方もいます。その方に頼まれて、柿崎を食べる会」では棚田で

田中産業株式会社は、上越のさまざまな挑戦を応援します。